

令和6年度 佐藤小学校評価

※%小数第一位を四捨五入

※評価 A…そう思う B…だいたいそう思う C…あまりそう思わない D…そう思わない E…わからない

※教職員は、給食員・事務・通級指導教室担当も含みます。

太数字 …AB合わせて80%以上

斜数字 …CD合わせて20%以上

		評価	児童	保護者	教職員	C S
よく考える子	①子供たちは、自分の考えを持って学習に取り組んでいる	A	42%	16%	17%	0%
		B	39%	55%	66%	80%
		C	10%	22%	0%	0%
		D	2%	4%	0%	0%
		E	7%	4%	17%	20%
	②子供たちは、「知りたい」「できるようにになりたい」という思いを持って、進んで学習に取り組んでいる。	A	59%	22%	41%	40%
		B	31%	53%	38%	60%
		C	5%	20%	3%	0%
		D	1%	5%	0%	0%
		E	3%	0%	17%	0%
	③子供たちは、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができています。	A	38%	11%	7%	0%
		B	45%	50%	62%	60%
		C	10%	37%	14%	0%
		D	3%	6%	0%	0%
		E	4%	2%	17%	40%
	④子供たちは、友達と話し合ったり、助け合ったりして学ぶことができています。	A	67%	34%	34%	0%
		B	24%	49%	45%	80%
		C	4%	11%	3%	0%
		D	3%	2%	0%	0%
		E	2%	5%	17%	20%
思いやる子	⑤子供たちは、自分のよさを見つけている。	A	56%	24%	24%	0%
		B	24%	56%	52%	60%
		C	10%	16%	7%	0%
		D	4%	1%	0%	0%
		E	6%	3%	17%	40%
	⑥子供たちは、友達のよさを見つけている。	A	56%	40%	31%	0%
		B	32%	50%	48%	40%
		C	7%	6%	7%	0%
		D	2%	1%	0%	0%
		E	4%	3%	14%	60%
	⑦子供たちは、進んで挨拶をしている。	A	53%	32%	7%	20%
		B	29%	34%	21%	60%
		C	11%	26%	55%	20%
		D	4%	5%	17%	0%
		E	4%	3%	0%	0%
	⑧子供たちは、自分で考えて行動している。	A	47%	23%	10%	20%
		B	36%	57%	45%	80%
		C	10%	18%	28%	0%
		D	2%	1%	0%	0%
		E	5%	1%	17%	0%
	⑨子供たちは、『できるようになりたい』という思いを持って運動に取り組んでいる。	A	66%	33%	31%	20%
		B	24%	42%	45%	60%
		C	5%	20%	3%	0%
		D	3%	4%	0%	0%
		E	2%	1%	21%	20%

健やかな子	⑩子供たちは、進んで体を動かしている。	A	55%	32%	24%	40%
		B	25%	34%	52%	20%
		C	13%	25%	10%	20%
		D	6%	8%	0%	0%
		E	2%	1%	14%	20%
	⑪子供たちは、学校(学級)で安心して過ごしている。	A	64%	38%	31%	60%
		B	21%	52%	45%	40%
		C	8%	6%	7%	0%
		D	4%	2%	0%	0%
		E	2%	3%	17%	0%
	⑫子供たちは、交通ルールを守って生活している。	A	71%	43%	17%	20%
		B	25%	53%	66%	80%
		C	2%	3%	3%	0%
		D	1%	0%	0%	0%
		E	1%	1%	14%	0%
	⑬子供たちは、「おはしも」「いかのおすし」を守って生活している。	A	73%	41%	41%	0%
		B	19%	51%	41%	100%
		C	1%	5%	3%	0%
		D	1%	1%	0%	0%
		E	4%	3%	14%	0%
キャリア教育	⑭子供たちは、夢や目標を持っている。	A	80%	26%	17%	0%
		B	12%	45%	59%	40%
		C	5%	19%	3%	0%
		D	2%	3%	0%	0%
		E	2%	5%	21%	60%
	⑮子供たちは、学習や生活の中で自分の成長を感じている。	A	60%	26%	28%	0%
		B	26%	58%	48%	60%
		C	6%	11%	3%	0%
		D	1%	1%	0%	0%
		E	7%	4%	21%	40%
開かれた学校づくり	⑯学校は、家庭、地域と積極的に連携していて相談しやすい。	A		22%	21%	0%
		B		55%	59%	100%
		C		16%	7%	0%
		D		3%	0%	0%
		E		4%	14%	0%
	⑰学校は、便りやホームページなどで情報を発信している。	A		38%	48%	40%
		B		54%	45%	40%
		C		7%	0%	20%
		D		0%	0%	0%
		E		1%	7%	0%
	⑱佐藤小のコミュニティ・スクールとしての取り組みを知っている。	A		10%	10%	0%
		B		39%	52%	60%
		C		28%	21%	40%
		D		5%	3%	0%
		E		19%	14%	0%
	⑲学校支援ボランティアの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。	A		27%	38%	40%
		B		52%	45%	60%
		C		9%	3%	0%
		D		1%	0%	0%
		E		11%	14%	0%

【学校運営協議会委員の皆様より（学校と地域のつながり・学校運営協議会について）】

- 子供たちの学校生活を行事以外で見る機会がないので、どんな思いを持って学校生活を送っているのかわからない。見るのではなく、関り・ふれあい・同じ時間を共有出来たら、子供たちの真の姿を少しでも知ることができるのかとも思う。
- 学校支援ボランティアの取り組みを更に広げることができると、学校が好き この街が好き→人が好き、自分の中にある可能性（得意）を発見できると思うので、応援していきたい。
- まだまだCSの認知は低く、つながる機会もないと感じる。地域の中での学校の存在をどう示していくのか、求めるばかりでないつながりが必要ではないかと思う。

【考察】

- (1) 子供たちは、友達と話し合ったり、助け合ったりして学ぶことができています。
→ 校内研修を通して、職員が学習のねらいに合わせ意図的に「協同的な学びの場」を設定した。Chromebook（一人一台端末）を活用することで、リアルタイムで友達と考えを共有したり、友達の考えを参考にしながら学習を進めることができるようになった。
- (2) 「知りたい」「できるようになりたい」という思いを持って、進んで学習に取り組んだり、自分の考えを持って学習に取り組んだりすることができている。
→ 校内研修を通して本校の目指す「自立した学習者」の育成を意識した授業が展開されるようになってきた。今年度は、「自立した学習者」の具体的な姿と子供たちが自立して学びを進めるための手立てについて教職員で模索してきた。
- (3) 子供たちは、自分や友達のよさを見つけることができています。
→ 「こころの日」の中学校区での実施。「かがやき発見」を全校実施し、互いのよさを見つける場を設けている。
学校支援ボランティアの方の温かい声掛けも子供たちの励みになっている。
- (4) 子供たちは、学習や生活の中で自分の成長を感じている。
→ 授業で自分の学び（何を学んだか…何が分かったか・できるようになったか、どのように学んだかなど）を振り返ることで、子供たちが少しずつ自分の学習を振り返るようになってきた。
学期の節目や行事を通して、子供が自分のめあて（なりたい自分の姿）を振り返り、それに対し教師が子供が無自覚な部分も含め価値付けている。（キャリアパスポートの活用）
- (5) 挨拶について、子供たちと保護者・教職員との間に認識の違いがある。
→ 自分から挨拶する子、大人が声を掛けると挨拶をし返す子等、様々である。
「さとっことはままつマナー」を活用し、学期ごとに全校で挨拶について意識する月を設けている。また、運営委員会の児童が昼休みに元気よく挨拶をしながら各学級をまわり、挨拶がよかった学級を昼の放送で紹介している。
「進んで挨拶する」姿について、大人のイメージしている姿と子供のイメージしている姿に認識の違いがあると考えられる。
- (6) 子供たちは、学校（学級）で安心して過ごしている。
→ 全校児童を対象とした「ハートタイム」を各学期1回実施し、担任が子供の話を聴く場を設定している。
夏季研修などを通して、全職員でいじめの未然防止・対応等について学んだり話し合ったりする場を設けている。子供の気になる表れがあった場合、速やかに臨時いじめ対策委員会を開き、学校組織で対応に当たっている。また、より迅速な対応ができるように、情報共有の方法や臨時いじめ対策委員会の実施方法等について、課題が見つかった場合はその都度、よりよいと思われる方法を試行錯誤しながら1年間進めてきた。
- (7) 子供たちは、交通ルールや「おはしも」「いかのおすし」を守って生活している。
→ 旗振り・交通安全ボランティアの方はじめ、地域の方の声掛けがある。また、全学年、1学期に交通安全教室を実施している。
各学期1回、様々な場合を想定した防災訓練を実施している。
1年生は、1学期に、「いかのおすし」の話を聞く場を設けている。また、長期休業に入る際は、各学級で「いかのおすし」について子供と確認している。

(8) 学校の教育活動・子供の様子が家庭・地域に見えづらい部分がある。

→ 教育活動のねらいや行事を通してどのような子供を育てたいと学校が考えているのかを家庭や地域に発信していく必要がある。

行事や参観会だけでは、子供の内面的な部分（「知りたい」「できるようになりたい」という思いを持っているのか等）が見えづらいのではないかと。もしくは、子供の学びが学校の中で完結してしまっていることも考えられる。

(9) 学校支援ボランティアの取り組みは、子供たちの豊かな成長を支える一助となっているが、コミュニティスクールとしての取り組みについての認知度は低い。

→ コミュニティスクールだよりやブログ、学校ホームページで、学校運営協議会の取り組みや学校支援ボランティアの活動の様子を紹介しているが、すべての保護者や地域の方が見ているわけではない。教職員についても、実際に運営に関わっている職員とそうでない職員の間には認識の差がある。

【改善策】

考察（1）より

- Chromebookを今まで以上に「道具」として活用できるようになるために、6学年を通した系統的な指導を目指す。
- 情報モラルについて子供たちと考える場を設け、「自分で判断してChromebookを活用できる子」を目指す。
- 校内研修などを通して、教職員のスキルアップを行う。

考察（6）より

- 引き続き全職員で全校児童を見ろという意識を持ち、職員から全校児童に積極的に声を掛ける。
- いじめ未然防止の視点を持って学級経営にあたるという意識を高める。
- 校内研修では、具体的な場面を取り上げ対応方法を話し合うことで、より実践的な学びの場を作る。

考察（8）より

- 今後も学校だより、ブログ、懇談会、面談等を通して積極的に発信していく。（普段保護者に見えづらい部分について発信していくことを意識していく。）
- 行事や活動終了後だけでなく、学校・学年がどのようなねらいで実施するのかや、子供たちがどのような思いで取り組み始めたのかなど子供たちの取り組みの過程も発信していく。

その他

- 学習や行事を通して、子供たちが自分たちで選んだり決めたりする場を意図的に設定する。
- さとっこ大運動会もさとっこわくわくコンサートのように子供たちが選んだり決めたりできる部分を増やし、子供たちの主体的な取り組みを目指す。
- 新体力テストを4月に実施し、体力向上に向けた自分の目標を明確にする。

【学校運営協議会の皆様からの主な御意見】

○ 挨拶運動に参加した際、子供たちの表情やアイコンタクトを通してよい変化を感じた。また、子供たちの方から明るい顔で挨拶をしてることが増え、うれしく思った。挨拶は、対話の糸口としても大切なもの。子供たちと地域住民が互いに安心して挨拶ができるよう、地域と学校をつなぐ活動がもっとできたらよい。また、挨拶を含め家庭や保護者の意識改革が必要だと感じる。褒めることが子供の成長につながる。挨拶を大切に、子供をきちんと褒めることができる環境にするには、親だけでなく地域・学校の協力が必要である。支援の具体については、令和7年度第1回学校運営協議会で話し合う。

○ 学校経営方針を保護者や地域が理解することで、家庭・地域・学校が一体となって子供たちを育てていくことができるのではないかと。グランドデザインを保護者に配布するだけでなく、地域に回覧もしくは配布することで学校の教育方針への地域の理解が深まると思う。

○ 「いじめ基本方針」の来年度改定の内容について

「いじめ防止等に関する取り組み」の中に、年に2回、学活の時間を使って人間関係作りの時間を設けたことに期待している。本校の児童は、真面目で優しい子が多いが、児童数が少ないため、中学校に進学したときに新しい人間関係の中でうまく自分を出ることができないでいる子もいる。社会に出たときに、自分を出せる大人になってほしい。子供たちの成長が楽しみである。

中学生になると、SNSの中のいじめもある。親が子供の様子を注意深く見守る必要があるが、学校も対応が必要になると思う。SNSについては、力を入れていくところではないか。

○ 学校支援ボランティアについては、より学校の教育目標と児童が抱える課題解決のための支援を企画したい。そのために、学校運営の現状と課題を明確にし、共有する必要がある。先生方の意見や希望を吸い上げられるようにしたい。

今後も、保護者・地域の皆様には、本校の教育活動に御理解・御協力いただき、ありがとうございます。

今回、報告させていただいたアンケート調査の結果や皆様からいただいた御意見をもとに、学校では来年度に向けての教育課程編成会議を重ねてまいりました。令和7年度の教育活動も子供たちにとって充実したものとなるように、全職員一丸となり学校教育目標「かがやく子」の育成に努めてまいります。